以上縷々述べたように羽野天満宮と山田原の周辺は、坂迎えに象徴される送迎の場となったが、それだけでなく、しばしば淡窓・咸宜園の「遊山」の地にもなった。すなわち

・文政七年（一八二四）

七月二十一日。伸平、伊三郎、謙吉ト羽野金毘羅ノ祠ニ謁ス。松尾掃部、釈龍譚従行ス。五更（午前三～五時・寅ノ刻）ニ家ヲ出ツ。山ニ至リテ始テ曙ケタリ。山上ヨリ霧ノ起ルヲ観ル。岩巒（ラン・ミネ）草木ヨリシテ、遠近ノ田畝（ホ）村落、其際ニ隠見出没スル者、千態万状、詩書ノ写スコト能サル所ナリ。平地ヨリ観ルトハ大ニ観ヲ異ニセリ。是レ俗ニ日田ノ底霧ト称スル者ニシテ、他方ニ稀レナル所ナリ。

・天保三年（一八三二）

九月朔日。塾生遊山スルニ因ツテ同シク往ケリ。同行スル者、謙吉、伸平、伊織、丑六ナリ。塾生ハ六十余人ナリ。羽野原ニ遊ヒ松樹ノ下ニ憩ヒシニ、雨俄ニ至レリ。奔ツテ一古祠ニ投ツ。菅天神ノ祠ナリ。其中ニテ行厨ヲ開ク。祠狭クシテ多人ヲ納ルコト能ハス。故ニ別シテ、チクラ妙見ノ祠ニモ席ヲ設ケタリ。両祠相去ルコト数町ナリ。余、二侍者浪江・政太郎ヲ携ヘテ先ツ帰レリ。日ヲ択ンテ遊ヲ為セシニ、雨ヲ以テ興ヲ盡スコト能ハス。人皆以テ憾トセリ。

・天保七年（一八三六）

八月二四日。山ニ遊フ。同行スルモノ加峰磻梁、隆庵、雁三郎、浪江、研之助、琉助ナリ。山田原ニ登リ、行厨ヲ開ケリ。此日天晴レ風ナシ。遊行趣アリ。時ヲ移シテ帰リ招隠洞ニ於テ茶話ヲナセリ。蒲池久市モ亦偶来レリ。座ヲ同シウセリ。

・天保十年（一八三九）

八月一七日。久兵衛カ招キ因ツテ山ニ遊フ。同行スルモノ、伸平、範治、一郎、勇、伏見屋、嘉左衛門ナリ。山田原ニ登リ行厨ヲ開ク。本菌ヲ采ル為ナリシカトモ、菌少ウシテ采ルニタエス。帰路木淵ニ過レリ。是ハ二串村ニアリ。昔年、或ヒト巨材ヲ以テ水中ニ入シ置キシカ。久シキヲ経テ淵ノ神トナリ、終ニ木淵ト称ス。

吹上神社（吹上観音）（図1・7）

花月川以北の地域には羽野天満宮のほかにも淡窓・咸宜園ゆかりの場所がある。その一つが通称吹上台地の中腹にある吹上神社と、その背後にひろがる台地（吹上山）である。吹上神社には観音像が祀られていて吹上観音として熱い信仰を受けている。この観音像は如意輪観音とされているが像容は聖観音である。後補のところが多いが平安時代中期の作とみられている。

この吹上観音では、淡窓の父三郎右衛門ら廣瀬家の人が、家人の病気平癒などを願って御籠りをしているほか、散歩の途次などに度々参詣している。すなわち「日記」には

・文化十年（一八一三）

九月十二日　病未愈。夜大人守夜於吹上観音閣。家人多往。予及正蔵数輩在家。

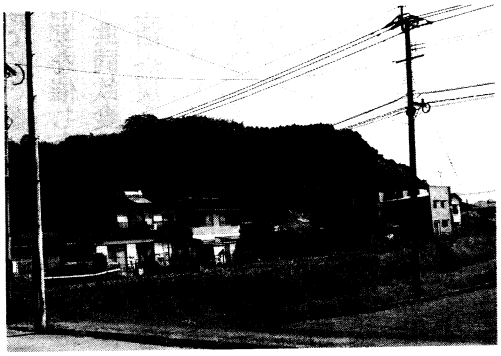
・文化十一年（一八一四）

九月十二日　大人守夜於吹上観音閣。妻歯痛。

・文化十四年（一八一七）

十月二十一日　夜厳君率十余人。守夜於吹上観音閣。妻亦隨焉。疾如昨。

・文政十四年（一八二一）



吹上山（吹上台地）

吹上神社